

三浦半島カブトムシ移動調査 2011

内船俊樹*

Subsequent report on movement of a Japanese rhinoceros beetle (Coleoptera: Scarabaeidae) in the Miura Peninsula in 2011

UCHIFUNE Toshiki*

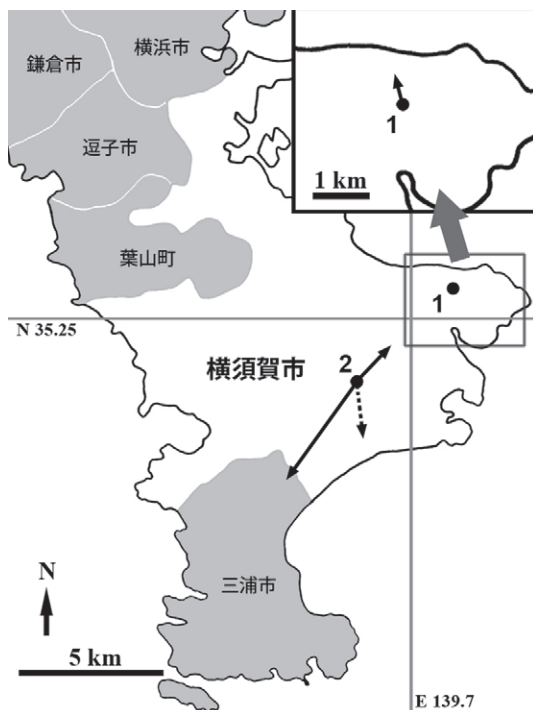
キーワード: カブトムシ, 移動, 三浦半島, 標識再捕獲
法, マーキング

Key words: Japanese rhinoceros beetle, movement,
Miura Peninsula, mark-recapture method

筆者は三浦半島におけるカブトムシ成虫の移動実態を明らかにするため、2009年より標識再捕獲法による移動調査を実施している(内船, 2010; 2011)。本報は2011年に行った同調査の記録である。調査範囲や調査方法は内船(2010)にしたがった。但し今回の調査では、貼付ラベルに地色と文字色を反転(黒地に白字表記)させたデザインを採用した。

2011年の調査は7~8月に実施し、放虫は2地点(第1図)で実施した。放虫個体は176個体(オス: 104, メス: 72)に上り、横須賀市馬堀町(博物館附属馬堀自然教育園・第1図の地点1)では7月17日に28個体(オス: 24, メス: 4), 同市光の丘(水辺公園・第1図の地点2)では7月23日に148個体(オス: 80, メス: 68)を、それぞれカブトムシ成虫の採集・ラベル貼付・放虫を行った。

上記の放虫に対し、5件の発見記録が得られた(第1表)。うち1件はラベルの個体識別番号が判別不能であり、どちらの地点からの移動であったか不明であった。放虫数に対する発見数の割合(再捕獲率)は2.8%であった。これは2009年調査(内船, 2010)の再捕獲率(5.9%)を下回る結果となった。今回の調査でも長距離移動個体(直線距離で1 km以上の移動)が確認された。発見までの日数が1件を除き3~7日であった。このことから、カブトムシの移動は比較的短期間のうちに行われる傾向が強いと考えられる。



第1図 調査地域および放虫地点(図中の数字). 地点1は博物館附属馬堀自然教育園(横須賀市馬堀町), 地点2は水辺公園(横須賀市光の丘). 黒矢印は500 m以上の移動記録を直線的に図示したもので、破線矢印はラベル判読不能個体(参考記録)。

移動傾向の雌雄差は、今回は発見個体数が少ないため結論は出せなかった。2009年の結果では再捕獲14件の8割近くがオス(内船, 2010)であり、今後の調査で移動傾向の雌雄差についても明らかにしたい。

謝 辞

本調査は多くの協力のもと実施された。水辺公園友の会および同公園を管理する横須賀都市施設公社、ならびに同公社主催のキッズ自然教室参加者および横須賀市立長沢中学校の生徒、さらに馬堀自然教育園管理職員および博物館昆虫教室参加者には、材料提供や放虫に関して協力いただいた。情報の収集や広報にあたっては、水辺公園友の会および自然・人文博物館職員に協力いただいた。各人および各団体に感謝申し上げる。

第1表 発見された放虫個体のデータ。No. 11-0223, 0258 は馬堀自然教育園（第1図の地点1）, No. 11-0093, 0056 は水辺公園（第1図の地点2）でそれぞれ放虫した。ラベル判読不可の個体は水辺公園からの放虫を仮定した日数・移動距離を記入した。

ラベル No.	雌雄	発見場所	発見までの日数	直線移動距離
11-0223	オス	横須賀市馬堀町	3 日	0.01 km
11-0258	オス	横須賀市馬堀海岸	3 日	0.5 km
11-0093	メス	三浦市初声町	3 日	3.6 km
11-0056	オス	横須賀市佐原	7 日	1.2 km
判読不可	メス	横須賀市長沢	(22 日)	(1.3 km)

引用文献

- 内船俊樹 2010. 三浦半島カブトムシ移動調査 -2009年の調査結果-. 横須賀市博研報 (自然), (57): 25-30.
 内船俊樹 2011. 三浦半島カブトムシ移動調査2010. 横須賀市博研報 (自然), (58): 49-50.